

個人情報報が米政府に筒  
信するイベントに、世界が  
ら7万人が集まった。  
家電や自動車もネットに  
つながり、集められる大量  
ことに躊躇はないのか。  
(サンフランシスコ)宮地  
う、ワシントン(香取啓介)

# 中国、国際秩序狙い取り込み

国と米国はネット空間  
導権を巡り、せめぎ合

米人権団体フリーダムハウスが、ネット  
利用者の権利保護の観点から、各国  
の自由度を0~40にポイント化。ユー  
ザの法的保護や、プライバシー保  
護、ネット上の活動に対する嫌がらせ  
などを考慮。資料はGlobal Noteから

グラフィック・加藤 啓太郎



いを続ける。

昨年12月、中国浙江省で政府などが開いた「世界インターネット大会」には、米アップル最高経営責任者のティム・クックら著名経営者が顔をそろえた。国家主席の習近平は祝電で「インターネットの発展は各国の主権や安全に新たな挑戦をもたらした」とし、その国際ガバナンスが変革期に入ったとの認識を示した。

大会には、アフリカのブルンジ、エチオピア、ジンバブエなどが情報通信担当の政府幹部を派遣した。習の知恵袋とされる党最高指導部メンバーの王滬寧はタイの副首相に「ネットガバナンスの体系をともに構築

したい」と呼びかけた。

ネット空間の国際秩序を巡る争いについて、米外交問題評議会のアダム・シールは「米中が直接やり合うというより、第三国をいかに取り込むかが主戦場になっている」と指摘する。

中国はシルクロード経済圏構想「一带一路」を使ってITインフラ開発にも投資。マレーシアは中国のIT企業から警察用の特殊カメラを購入。エチオピアやケニア、ブラジルでも治安機関が中国の顔認証システムを導入する動きがある。

米国は、日本を含む30カ国でつくる「自由オンライン連合」などを通じて中国

式のガバナンスを牽制するが、シールは「報告書を出すだけの連合と、金を持つてくる中国。米国は後れをとっている」と語る。

自由を標榜する欧米にも、隔たりが生じている。

欧州連合(EU)加盟国を中心とする欧州31カ国は5月、個人情報保護を域外に持ち出すことを原則禁じる「一般データ保護規則」(GDPR)を導入。世界で最も厳しいとされる規制を敷いて、「人権のための管理強化」に乗り出した。違反すれば、最高額で2千万円(約26億円)か、全世界の売り上げの4%の多い方を制裁金として科す。

背景には欧州の強い危機

感がある。スノーデン事件で、欧州議会は「市民の権利を守るために、必要なことがほとんどとされている」と規制強化を求めた。

フェイスブックが持つ膨大な個人情報報が英国の選挙コンサルタント会社に流出した疑惑も浮上し、ネット空間の無秩序さへの警戒感が高まっている。

「我々は個人情報を保護するために、欧州の主権を打ち立てようとしている」GDPRを推進するフランス大統領のマクロンは、人権を守るべき米政府が企業に寄り過ぎ規制が甘いと批判。中国も「過度に中央集権的で、我々とは価値観が異なる」と語り、両者のいずれとも違う「欧州モデル」を模索する。|| 敬称略(北京||福田直之、ブリュッセル||津阪直樹、パリ||疋田多場)

## 「見えない国境」による支配

編集委員 須藤龍也

インターネットは国境のない自由な世界と思われがちだが、実は「見えない国境」に支配されている。中東の民主化運動「アラブの春」で、エジプトのネットが一時的に使えなくなっ

中国は、国家によるネット管理の象徴といえる存在だ。中国版LINE「微信」は、利用者の情報を当局に送信する趣旨の規約への同意を求める。政権に都合の悪い情報へのアクセスは封じられ、フェイスブックなどにも接続できない。

トルコでは昨年、「ウイキペディア」への接続が遮断された。政府によるネット遮断は、「サイバー主権」のいったんが顔をのぞかせる瞬間である。自由を理想としていたはずの米国でも、スノーデン事件でネットが国家の監視下にあることが暴露された。

政府のネット検閲システムは、万里の長城になぞらえ、通称「グレート・ファイアウォール」と呼ばれる。米人権団体が「世界で最も不自由なインターネット」とするゆえんである。体制維持のための管理システムは中国ネット世界の

特異な発展を生み、ITと社会の新たなあり方を示す。世界最大のネット人口となお倍近い伸びしろを持つ市場で、独自の技術やサービスが育っている。監視カメラなどネットにつながるIoT機器が膨大な情報を集め、データが富を生む新たな経済をリードする。この現実をどうとらえるか。検閲にさらされるインターネットは、私たちの望む将来ではないだろう。米

のを尻目に中国が存在感を膨らませ、サイバー空間の秩序づくりは混沌としている。ネット上を流れるデータは国家による囲い込みが強まり、「見えない国境」が可視化されつつある。憲法で「通信の秘密」が保障される日本では、国家の介入を許すまいとする民間通信事業者の自負にネットの自由が支えられている側面がある。一方で政府は国際的な議論に加われず、そのことに危機感を訴える声もほとんどない。

◆「ひと」は休みました。





### 夏色 衣替え

岡山市南区の児島湾干拓地で、ビールの原料などになる二条大麦が収穫期を迎えている。収穫前の大麦で染まる畑の黄金色や収穫後の薄茶色、田植えの準備が進む土色が、モザイク模様の並んでいた。岡山県は、西日本有数の条大麦の産地。収穫作業は日ごろまで続く。(朝日新聞社ヘリから、デジタル)

# ネット空間国が掌握



CHINA STANDARD  
容疑者を見分けられるサン  
グラスをかける警察官(中  
国新聞社(中国の通信社))



5月末、中国雲南省の省都・昆明の駅で、行き交う人々を銃を手にした武装警察がやぐらの上から見下ろしていた。2014年3月、駅前広場にいた群衆に男女が切りつけ、31人が死傷する事件が発生。当局はウィグル独立派の犯行と断定し、8人の容疑者を射殺するなどした。

民族対立を背景とするテロなどで治安が悪化するなか、中国当局は警備の態勢と装備を強化する。昆明の警察が採り入れたハイテク眼鏡もその一つだ。

上側のフレームが厚い眼鏡をかけて相手の顔を見るのと、即座に警察のデータベースと照合される。容疑者の疑いがあると警告音が鳴る。視界には、容疑者のデータとどの程度一致したか

容疑者を見分けられるサングラスをかける警察官(中国新聞社(中国の通信社))

という情報が、2分ほど先のディスプレイを見ているかのような感覚で浮かぶ。

広東省深圳などでは横断歩道に監視カメラが据えられている。信号無視をした市民は顔認証で身元が割り出され、公安のホームページや現場のディスプレイに映し出される。

可能にするのは情報技術の向上と、共産党政権が蓄積してきた約14億人分の膨大なデータだ。個人情報権力が握られ、プライバシーが失われる監視社会は、SFで「ディストピア(暗黒郷)」と呼ばれてきた。それを地で行くような中国の現実、膨大な情報を吸い上げるインターネットの発達抜きに語れない。

人口の半分を超す7億人が形成する中国のネット空間は、当局の厳しい管理という垣根で外部と隔てられ、特異な発展を遂げた。そして中国はネット空間の掌握を国家安全の問題ととらえ、「サイバー主権」を唱える。国境をまたぐネット空間でも実際の領土と同様に各国の主権を認め、コントロールできるようにするべきだとの主張だ。

「インターネットの開放性は、『サイバー主権』を推進する中国のような独裁

人口の半分を超す7億人が形成する中国のネット空間は、当局の厳しい管理という垣根で外部と隔てられ、特異な発展を遂げた。そして中国はネット空間の掌握を国家安全の問題ととらえ、「サイバー主権」を唱える。国境をまたぐネット空間でも実際の領土と同様に各国の主権を認め、コントロールできるようにするべきだとの主張だ。

「インターネットの開放性は、『サイバー主権』を推進する中国のような独裁

体制に攻撃されている」

2月の米下院外交委員会。委員長のエド・ロイスは、ネット世界のルールづくりで米国が主導権を握るべきだと訴え、「『サイバー主権』は全体主義のディストピアにつながる。米国の価値観とぶつかるものだ」と危機感を示した。

インターネット技術を生んだ米国には、ネットの世界は自由で開放的であるべきだとの考え方が根本にある。しかし、中国の力が増すなか、その理念は足もとで揺らいでいる。|| 敬称略 (北京||福田直之、ワシントン||香取啓介、サンフランシスコ||宮地ゆう)

▼2面||米中主導権争い

## 折々のことば

一清 鷲田 1129

儀式的にふるまおうとすると、それを破るように涙が込み上げてくるのです。

門脇健

長い介護の後、老母を亡くしたご住職。湯灌や葬儀の準備は淡々と、ときに家族みなで「和気あいあい」とできたのに、通夜の勤めや弔問客に挨拶をする段になって思わず慟哭する。身についた仕事は体も勝手に動く。その隙をついて、抑えていた感情が堰を切ったのか。人を失う悲しみは、日常に戻った時にじわりと沁みだす。大谷大学の「哲学科教員ブログ」(5月8日)から。

2018・6・4

## 天声人語

剛力彩芽さんとのコンビが迷宮事件に挑む。最大法取引」。3年前ドラマ「天使と悪件匿名交渉課」で

を裏切れ。犯人を告発するあなたの罪は問わない……。握る人物をそんな言葉で揺るまで虚構の世界でしか見聞しない司法取引が、今月から使われることになった。他局に明かせば、見返りとしてされる。ただ冒頭のドラマ人事件では使えない。対象合、脱税、薬物や銃器の売れた▼威力を発揮しそうなしかにある。オレオレ詐欺では、摘発された実行犯が打尽にできるかもしれない。の制度が早くから盛んに活用されている。受刑者が同房のうちに上げた例が相次いで登壇に受けて捜査が進み、死刑もあつた。冤罪が判明したくない▼米国に比べると、日米間の慎重に設計されたと聞わが身かわいさのあまり、きをしないか。無実の人々たる恐れはないのか。素人な次から次へと浮かぶ。功罪でも目の離せない制度の始

日本トンスターチ

柑橘の恵みをじ 粹練り固め せっけん